

4

妊婦健診で行う検査

Doctor

神戸市立医療センター中央市民病院産婦人科 川崎薫

妊婦さんと赤ちゃんの健康管理のために大切な妊婦健診では、どのような検査を行うのかみていきましょう。毎回共通する基本的な項目として、血圧測定と尿検査があります。妊娠高血圧症候群や妊娠糖尿病の早期発見のために必要です。妊娠中の体重管理は、赤ちゃんの適切な発育や、妊婦さんの妊娠高血圧症候群の発症予防のために重要なので、毎回体重を測定します。

【妊婦健診期間中の標準的な検査】

時期	妊娠初期～23週	24週～35週	36週～出産まで
妊婦健診の間隔	4週間ごと	2週間ごと	1週間ごと
毎回共通する基本的な項目	お母さんの健康状態の把握、赤ちゃんの心拍の確認 血圧、体重、子宮底、腹囲の計測、尿検査（蛋白尿、尿糖の有無） 浮腫の有無の確認		
医学的検査	血液検査① (ABO血液型・Rh血液型・不規則抗体、血算、血糖、B型肝炎抗原、C型肝炎抗体、HIV抗体、梅毒血清反応、風疹ウイルス抗体価)	血液検査① (血算、血糖)	血液検査 (血算)
	子宮頸部細胞診② (子宮頸がん検診)		B群溶血性レンサ球菌検査④
	血液検査 HTLV-1検査 (30週まで)		
	クラミジア検査 (30週まで)③		
	超音波検査⑤		

◎ それぞれの検査は何のためにするの？

① 血液検査

血液型は母体輸血が必要な場合や血液型不適合による新生児黄疸の場合の情報になります。Rh(-)型やある種の不規則抗体が陽性の場合、赤ちゃんの赤血球が攻撃されて壊れ(溶血)、貧血となり、重症の場合は心不全や全身の浮腫をきたすことがあります。また、貧血がないか、糖尿病になっていないかを検査します。感染症の項目は、赤ちゃんへの感染を予防するために検査を行っておく必要があります。

② 子宮頸部細胞診

妊娠初期に子宮頸がんの有無を調べます。

③ クラミジア検査

陽性の場合、赤ちゃんのクラミジア結膜炎、咽頭炎、肺炎を予防するために、抗生物質による治療を行います。

④ B群溶血性レンサ球菌検査

陽性の場合、赤ちゃんに敗血症、髄膜炎、肺炎を引き起こす可能性があるため、お産のときに抗生物質による治療を行います。

⑤ 経膈超音波検査

妊娠初期の赤ちゃんの状態の観察を行います。妊娠中期以降は切迫早産の兆候がないかを確認します。

経腹超音波検査

赤ちゃんの推定体重の測定を行い、お母さんのおなかの中で元気に成長しているかを確認します。また、赤ちゃんのからだの構造に異常がないかどうかや羊水の量や胎盤の位置の観察も行います。